

未来志創

よっくや！顔晴ろう！

言葉にはすごい力がある

共創 ～自分にできることは？～

先週の金曜日の5・6限の総合の時間に、校外学習で撮影した写真を使って「思い出のアルバム」づくりをしました。それぞれの班が、**懐かしそうに**、班別学習での出来事を思い出しながら、**楽しそうに**取り組んでくれている様子を見ることができて、とても嬉しかったです。仲間たちと思い出を共有できるってとっても**幸せなこと**ですね。素敵な時間になってくれてありがとうございます！

さて、昨日から12月です。1年を締めくくる大切な1か月になります。先週の木曜日からは生徒会執行部の「**生活5目標見直し週間**」を行っています。よりよい学級・学年づくりのために、自分が**できることは何**でしょうか。「自分ひとりくらい…」ではなく、「**自分＝学級**」であり、「**自分＝学年**」です。**一人一人が「芝園中学校生**」です。できることは、必ずありますよ(^o^)/

誰より先に行くはな
今より先に行くはな
自分を越えて行くはな



© 杉本アリス/ホム社

言葉なんだなあ・・・

しもやん(下川浩二さん)からもらったCDの中に、『涙の数だけ大きくなれる！』の著者・木下晴弘さんとの対談CDがあった。その中に木下さんが、とあるハンバーガーショップに入ったときの話があった。

その日は結構混んでいて、三つのレジに列が出来ていた。木下さんは前から3番目に並んでいた。バイトの女の子が「店内でお召し上がりですか？ お持ち帰りですか？」とお客さんに聞いている。どこのハンバーガーショップでも見られる光景である。

何を食おうかと考えていた木下さん、ふと前のほうが騒がしいことに気がついた。一番前の男性の声が怒鳴り声になったからだ。どうも注文した商品の一つを入れ忘れたようだ。

男性は「何しとんねん。トロインじゃ、お前。もうエエわ」と怒りをあらわにし、商品が入った紙袋を奪い取るようにして店を出ていった。その後ろ姿に向かって、バイトの子は「申し訳ありませんでした。すみませんでした」と何度も頭を下げていた。一瞬にして店内の空気が刺々しくなった。

2番目に並んでいたのは70歳くらいのおじいちゃんだった。バイトの子は**今にも泣きそうな顔だったが、無理やり作った笑顔で**、「いらっしやいませ。こちらでお召し上がりですか？」と、何事もなかったかのように接客した。おじいちゃんは静かな声で言った。

「お姉ちゃん、エライなあ。世の中にはさっきの人みたいに自分の思い通りにならなかったら怒鳴り散らす人がいる。あの人もなんか急いどったんやろう。あんなこと言われてあんたの心はもうズタズタのはずや。にもかかわらず次に並んだらわしに笑顔で接客してくれた。わしにはあんたくらいの孫がおる。あんたの笑顔を見て、その孫を思い出した。これから孫に連絡を取ろうと思う。いや、ありがとう。あ、コーヒーを一杯」

その言葉を聞いた途端、堰を切ったようにバイトの子の目から涙が溢れ出した。ワンワン声を上げて泣き出した。しばらく涙が止まらなかった。横のレジに並んでいた中年の女性が声を掛けた。「あんた、本当にいいお仕事してるわよ」

刺々しかった店の雰囲気、一瞬にして和らいだ。

言葉なんだなあと思った。何の関係もない間柄でも、**たった一言で、一生忘れられない人になる**。言葉には言語としてだけではない、**何かすごい力がある**んだと思う。そんな言葉を発する人になりたいものである。

「みやぎ中央新聞 2447号(2012/02/13)」より

私自身もハッとさせられました。言葉には魂(心)が宿りますね。大切に使っていきたいです。